

2023年3月及び2022年度のアルミニウム圧延品の生産・出荷動向について

2023/5/1発表



1. 2023年3月のアルミニウム圧延品の生産・出荷概況

◆ 概況：
 ・板： 「缶材」「自動車」などのプラスにより、内需は前年並み(▲0.7%)だったものの、輸出が大きく減少したため(▲25.6%)、全体でもマイナスとなった。
 ・押出： 生産・出荷ともにマイナス。「自動車」は3か月連続でプラスとなり、回復傾向が続いている。
 ・はく： 生産・出荷ともにマイナス。「食料品」「電気機械器具」ともにマイナスが続いている。

・板類（主な分野のコメント） *数字は出荷量、カッコ内は前年同月比

- (1) 缶材 38,730トン (8.7%) : 前月の出荷量が低かった(▲6.4%)ことから、反動増となった。
 (2) 自動車 19,547トン (12.3%) : 半導体不足が徐々に解消され、自動車生産台数が回復、車体用パネル材の新規採用もあり、二桁プラスとなった。

2023年2月の国内四輪車生産台数: 738,730台(前年同月比+6.5%)

・押出類（主な分野のコメント） *数字は出荷量、カッコ内は前年同月比

- (1) 建設 35,498トン (▲ 5.0%) : 住宅着工戸数は前年並みだが、アルミから樹脂サッシへの移行などにより建設向けはマイナスとなった。
 2023年2月の住宅着工戸数: 64,426戸(前年同月比▲0.3%)
 (2) 自動車 11,618トン (7.4%) : トラック向けが前年比二桁増となり、自動車全体をけん引した。

・はく（主な分野のコメント） *数字は出荷量、カッコ内は前年同月比

- (1) 電気機械器具 4,729トン (▲ 24.7%) : 電子機器関連や民生用リチウムイオン電池はコロナ特需の終了による反動減が継続、車載用リチウムイオン電池の市中在庫の滞留による生産調整が続いている。
 (コンデンサ: ▲29.0%、リチウムイオン電池: ▲20.9%)
 (2) 食料品 1,944トン (▲ 16.0%) : 「酪農用」「飲料用」などはプラスだったが、物価高騰により、嗜好品を多く含む「製菓用」が大幅に減少(▲33.4%)、レトルト食品を含む「その他」も、包装材料の素材転換影響によりマイナスが続いている。

◎2023年3月実績 生産および出荷(前年同月比、▲はマイナス)

	生産(トン)	前年同月比(%)	コメント		出荷(トン)	前年同月比(%)	コメント
板類	103,622	▲ 7.2	11ヶ月連続でマイナス	板類	103,907	▲ 4.9	12ヶ月連続でマイナス
押出類	58,136	▲ 6.6	15ヶ月連続でマイナス	押出類	59,285	▲ 6.0	13ヶ月連続でマイナス
板押計	161,758	▲ 7.0	12ヶ月連続でマイナス	板押計	163,192	▲ 5.3	13ヶ月連続でマイナス
はく	8,828	▲ 19.2	13ヶ月連続でマイナス	はく	8,789	▲ 20.6	13ヶ月連続でマイナス

2. 2022年度（4～3月期）のアルミニウム圧延品の生産・出荷概況

（前年度比(%)、▲はマイナス）

	生産(トン)	前年度比(%)	コメント		出荷(トン)	前年度比(%)	コメント
板類	1,117,816	▲ 5.4	マイナスに反転	板類	1,107,562	▲ 5.7	マイナスに反転
押出類	667,448	▲ 6.4	マイナスに反転	押出類	680,256	▲ 5.8	マイナスに反転
板押計	1,785,264	▲ 5.7	マイナスに反転	板押計	1,787,818	▲ 5.8	マイナスに反転
はく	104,341	▲ 17.5	マイナスに反転	はく	105,409	▲ 16.0	マイナスに反転

◆ 出荷概況

2022年度の圧延品生産出荷は、生産、出荷ともにマイナスになった(生産:▲5.7%、出荷:▲5.8%)。

板類:「缶材」は行動制限がなくなり外出機会が増加したことから、家飲み需要が減少しマイナスとなった。

「自動車」は半導体不足及び部品調達難により自動車生産台数の減少が続きマイナス。「金属製品」は、箔地は大幅減少したが、印刷版向けは経済活動の正常化や円安による国内材回帰があり大幅に増加した。

押出類:「建設」は住宅着工戸数の減少や樹脂サッシへの転換などによりマイナス。「自動車」は板同様生産台数の減少によりマイナスとなった。

はく:コロナ特需の終了により、民生用のリチウムイオン電池向けは需要減退、自動車用も自動車生産が回復せず、マイナスとなった。

「食料品」は一部の商品が好調だったことから、「飲料用」はプラスとなった。

◆ 主な分野のコメント: *数字は出荷量、カッコ内は前年同期比

板類

(1) 缶材 389,998トン (▲ 2.7%) : 行動制限がなくなり、外食機会が増加、家飲み需要の減少によりマイナスとなった。

(2) 自動車 180,507トン (▲ 5.5%) : 車体用のアルミパネルは新型車での採用増があったものの、半導体不足や部品調達難により四輪車生産台数の減少により、大幅減となった。
二輪車は、コロナ禍以降の好調は落ち着き、ほぼ前年並みとなった。

押出類

(1) 建設 415,083トン (▲ 3.8%) : 住宅着工戸数の減少に加え、トップランナー制度によりアルミサッシからアルミ樹脂複合、樹脂サッシへの移行が進展、マイナスとなった。

(2) 自動車 117,832トン (▲ 5.3%) : 板同様、自動車生産台数の減少によりマイナス。トラックは一時減産の影響が見られたが、足元では輸出向けを中心に回復基調。

はく

(1) 電機機械器具 55,865トン (▲ 23.6%) : リチウムイオン電池はコロナ特需の終了により民生用が減少、車載用も自動車生産が回復せず、マイナスとなった。コンデンサーは上期は好調だったが、5月以降は中国ロックダウンの影響による工場稼働停止や材料メーカーの設備トラブル、需要減退などによりマイナスとなった。

(2) 食料品 22,600トン (▲ 6.8%) : 「飲料用」は乳酸菌飲料でヒット商品があり、+8.3%と伸長したが、それ以外の食品分野では、湯せんから電子レンジ対応包材への素材転換、物価高騰による嗜好品の買い控えなどがありマイナスとなった。

注:トップランナー制度:エネルギーの使用の合理化等に関する法律施行令。サッシはより断熱性能のすぐれた製品を生産、販売することが義務付けられている